

I 海況及び気象と沿岸海苔漁場との関連についての座談会

共 催 { 水産海洋研究会
 { 全海苔組合 浅海増殖中央研究協議会

日 時 昭和41年6月29日午前10時30分～午後5時

場 所 全海苔会館会議室

コンビナー 齋藤泰一 (東京水産大学)

本文は全海苔組合発行の機関紙「海苔タイムス」に島内記者が編輯して発表されたものを転載させて頂きました。こゝに同紙に感謝致します。(従つて座談会の総てを記述した速記録ではありません。部分要点だけが記載されております。)

出席者 (敬称略)

(水産海洋研究会) 宇田道隆 (東京水産大学) 齋藤泰一 (同) 森田良美 (同) 大塚一志 (同) 門田定美 (日本大学) 進士福太郎 (気象庁) 飯倉敏弘 (農林土木試験場・水産土木部) 東条貞義 (KK トウジョウ・ウエザー・サービスセンター) 岡田正義 (同) 関本道夫 (KK 鶴見精機工作所) 松威 (同)

(ノリ養殖関係者) 片田実 (東京水産大学) 岩本康三 (同) 三浦昭雄 (同) 里見雅子 (同) 須藤俊造 (東海区水産研究所) 丸山武男 (同) 佐藤鉦一 (千葉県内湾水試) 田村静夫 (同) 工藤盛徳 (神奈川県水試) 大野知多夫 (同) 下野敏夫 (千葉県船橋漁協) 長沢良助 (同幕張漁協) 丸熊二 (同青堀南部漁協) 殖田三郎 (浅増中) 青柳輝雄 (同) 海部英一郎 (同)

座談内容

長沢 千葉県は密殖といわれます。昨年から県が減柵行政指導にのり出し、ある程度のことを行いました。また今年も基準をきめその方向に指導しているが、はたしてどこまで減柵すればよいのかその基準が知りたいのですが。

丸山 一昨年長井漁協 (神奈川県) でその問題をしらべた。だがこれは特殊な漁場なのでその基準が、全国にあてはまるかどうか自信がもてません。

長井にかぎつた場合は、基準に従い昨年は大豊作でした。早冷で不良年だったにもかかわらず……………。

片田 基準を決めてくれとの要望が全国からとどいてます。だいたいの線はわかつてきたので発表したいとは思っているが……………。

殖田 千葉県の松ヶ崎にいい資料があつた。減柵の基準は漁場により、また年により違うのでむづかしいと思う。だがこの資料からみると漁場総面積に対し網面積が22%の場合、坪当りの生産は106枚、35.5%の場合160枚で最高、あとは網が増えると坪当りの枚数は減つている。千葉県、または全国的に密殖であることは間違いない。戦前の姿にかえしてはどうです

か。

(ここで戦前にくらべ千葉県組合員が8倍程度になつているという話があつた)

丸山 殖田先生の話で勇気付けられました。私の出した基準は特殊な漁場でもあり、漁場総面積の3分の1、約30%が網面積です。

片田 そうです。だいたいそのくらいですよ。それでいいことにしましょうよ。

ただしこれは柵ではなく、網面積ということですよ。

宇田 水の流動がノリにとつて大きな問題とされてますね。現在の研究段階は？

殖田 生産系構造の調査をやつています。鉄板酸化法がそれです。

片田 鉄板酸化量は溶存酸素量によつても左右されるでしょう。したがつて海中の酸素量を計る機械も必要ですね。

接しよく水流が酸化度と比例するという前提でやっていますが、ノリが漁場にある場合、またぜんぜんない場合というように調査することも必要でしょう。減耗量が表わす値、これにも人為的なものがくわつてきているようです。また比重も加わるだろうし、そうなると数字の修正も必要となりますので、この比重を計る機械もぜひ必要です。私が海洋関係者にのぞみたいのは、もつと小さいところから考えていただきたいということです。

漁場の潮の流動にしても湾の大きな水の交換、そしてノリに接した水の流動といろいろな段階にわかれるのです。

門田 私は松平先生のもとで研究していました。特に松川浦(福島県)について調査したのです。

先般減耗量60ミリでもノリが取れるとの話でしたが、松川の場合100ミリ以下ではやはりノリはやれません。使用の方法、量を計る問題点等もありますが、よりよくなるようやつていきたいと思います。

片田 60ミリというのは特殊な例で、やはり100ミリ以下では生産ゼロですよ。特殊な例では有明海のような地形的なもの、また工場排水が減耗にひびいたということもありましよう。

丸山 はつきりいつて減耗量がどのくらいが一番いいのですか。

門田 松川浦の場合100~200ミリということですよ。湾口は200~300ミリでした。

片田 上の値はノリの生産とは関係なくなるということでしょう。

ところで鉄板に代えるものでなにかこうヒラヒラした、ノリみたいなもので流動を計ることはできないものでしょうかね。

森田 金属では駄目ですがなにかありそうです。

斎藤 1昨年と昨年を比較して最大の特徴は何ですか？

進士 昨年は百年に一度ぐらいの変つた年でした。日本付近を通過した低気圧が海の上で発達したことも特徴です。各地で気象台始まつての出来事というのがたくさんありました。

斎藤 この秋はどんなものでしょう。

進士 8月にならなければはつきりしませんが、秋が早く来るといふ話もあります。

東条 ノリについてはまつたくの素人ですが、皆様のお役にたてばと考え、また勉強のためにも参加しました。現実に私達が長期予報を提供し、好評をいただいている例は沢山あります。ヒマラヤ遠征隊のためにも十分役にたちその確実性は高く評価されました。人命にかかわる問題ですからこうして私達の予報を利用していただいているのです。

ただし実際に私どもを利用していただく場合考えることはたくさんあります。まず焦点をしばつてお願いしたいこと、たとえばどの地区の水温なら水温、波なら波というようにです。たくさんものを持ちこまれたらそれだけ全体に確実性がうすくなることもあり、やりにくいのです。依頼を受けた事項に対し私達はほう大な数字をひつぱり出し、数字的に裏付けしてお役にたつのです。十日に一度づつ予報を出すこともできます。

飯倉 ノリ網は波を消し、潮の流動にも大きな抵抗となるでしょう。流れが大きければそれだけ強くなり、ノリが伸びた場合、また強くなると思います。流動を考えた場合抵抗を調査する必要がありますね。マクロ（大きな見方の意）とマイクロ（微小）でテストすること、そして潮流しをよくすることが注眼ですね。

片田 土木の関係では波を消す研究がさかんだが、波については消さない研究もほしいですね。たしかにノリ網の抵抗力は大きい。ベタ流しの場合、荒海でボツンとやるとアツという間に網は持つていかれるが、大きく入ると少々の荒波でもたえることが出来ます。ノリ養殖は度胸がいりますね。